

あなたのご家族（兄弟・姉妹・父母・祖父母）に八中の卒業生がいたら見せて下さい。

変わる社会 五無主義 終戦まで何かと抑えられていた社会が、戦後は開放的な方向に向かって行った。しかし、その開放が「籬（たが）が外れる」如く、無軌道になったのではないかと危惧される。開放を求める方向は「自由解放」である。しかし、その自由解放の自由とは何であったのか。

何かと強制され、自由とは云っても選択の自由さえも奪われた時代であった。そんな中での自由開放に求めたものは、特に選択の自由の中でも「やらない自由」ではなかろうか。「しらけ」「さとり」などと言葉は踊っても、結果的には「やる気」のなさの肯定でしかない。

やらない自由は、「やらない」（動詞）・「やれない」{能力・状況}・「やりたくない」（意志）で、その内容は変わる。これがやがて「見ない」「見れない」「見たくない」などにも波及した。最近の「働き方改革」も働かないでも済む方向に向いている。つまり「働かない改革」ではなかろうか。次々に会社や職場が休みになったり、就業時間の短縮など、本来の成果を上げる方向ではない。勿論、この成果を上げることの限界もあり、無為に成果を求めるのも問題ではあるが。

特にバブル崩壊後の「失われた20年」では成果も上がらず、効率と分配に視線が移されたため、能力を競うこともなくなり、目の前の仕事をこなすだけとなる。そんな状況が人々を更に変化させ、「無気力」「無関心」「無責任」とされてきた三無主義に、「無感動」「無作法」が加わり、自堕落な人間が増えてしまった。

またその結果、自己中心的な孤独な人々を多く排出し、社会問題ともなっている。自己中心で他者を拒んでも、何とか暮らしが成立する「分業化社会」は、自給自足ではない。ある時子供にテレビのインタビューで、「お母さんがいなくなったらどうする、食事を作る人もいなくなるよ」。「大丈夫だよコンビニがあるから」。もうお母さんが聞いたら泣くよね。

そして現在は、「今だけ・金だけ・自分だけ」なんて世界もあるし、「スマホ・コンビニ・アニメ」があればそれでいい何てのものもある。特にスマホの普及と利用は拡大し、「夢は何か」と聞かれた子供が「新しいスマホ」という夢を語る例も。いずれにしても好影響ばかりではない。

スマホのメールのやり取りが多くなり、既に3割の人（大人を含めて）が長文を理解出来ないという報告もある。ですから長文の多い書物は売れないし、小説家も短文の小説の方向にある人もいるという。つまり、メールが如く短文か箇条書きしか理解出来ないのである。

コミュニケーション能力も低下し、友達の出来ない理由の中に、「友達と何を話していいか分からない」という。たった一度の人生、スマホで明け暮れていいのだろうか。出来ない事が出来るようになるのが「成長」。歳を取ると出来ていた事が出来なくなる「退化」。若い内にストックを作る必要が。

家康ゆかりの地

⑦松尾神社

和銅年間（708～715年）の創建で、浜松神社ともいい、白鬚（しらす）大社を主祭神として奉斎する。天正5年（1573年）守護神と合肥し松尾神社に。

同窓会だより」掲載記事募集

八幡中学校同窓会事務局 代表 白井 鉄男

連絡先: 〒430-0928

浜松市中区板屋町612-402

FAX: (053) 489-6391

ironman29@hotmail.co.jp



「同窓会だより」は、八幡中学ホームページトップの「特色ある活動」から入ると、スマホやパソコンからでも見られます。皆様の友人や同級生にも教えてあげて下さい。「同窓会だより」は毎月発行。